

20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS Malmo 2015)における研究発表

甲斐 智大*

はじめに

今回、平成27年6月24日～平成27年6月27日の日程で、スウェーデンのマルメにて開催された20th Annual Congress of European College of Sport Science（第20回ヨーロッパスポーツ科学会）に参加し、これまで行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いたので、学会大会の様子および自身の発表内容についてここに報告する。

ECSS

ECSSは、体力・スポーツ科学分野の国際協力を推進するとともに、研究者間の交流を目的とした国際組織である。当学会は約2万名以上の会員を擁しており、1年に1度、学会会議を開催している。ヨーロッパを中心とした学会であるが、アメリカ、アジア、オセアニアなど世界中から、体力・スポーツ科学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んにおこなわれている。今回参加した、第20回ヨーロッパスポーツ科学会においても、70か国から2300名あまりの参加があり、学会会場はスポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動指導および実践者等の参加者で盛況だった。

学会大会は、著名な研究者らによる「Invited presentations」をはじめとした、「Oral presentations」, 「Mini-oral」, 「e-poster」の4つのセッションで進行された。いずれの研究内容も、非常に興味深いもので、今後の研究において有益な知見を得ることが出来た。今回が初めての国際学会だった私にとって、世界中で行われている研究の幅の広さと、研究者たちの熱意は非常に刺激的であり、自

身の研究活動を見つめなおすきっかけとなった。



研究発表会場

研究発表について

学会大会3日目の6月26日、Mini-oral sessionにて「Quantification of number and appearance ratio of a ball control play facing opponent's goal in soccer.」というタイトルで自身の研究発表を行った。「サッカーにおいて、相手ゴールを向いてボールをコントロールするプレー」について、攻撃場面ごとのプレーの定量、また、それらのプレーと走行パターンの関係について検討したものである。今回の発表を通して、自身の研究に関する分野の研究者たちと、議論を行うことが出来た。そこから研究をさらに発展させられるアイデアを得ることが出来た。今後、追加実験のデータと合わせて、本研究の内容を、論文として国際誌に投稿する予定である。

また、学会を通じて、研究をする上での英語の重要性を認識した。自分の考えを欧米諸国の研究者たちに上手に発信することの出来ないもどかしさ、悔しさを感じた。今後、世界中に自身の研究内容を発信していくため、英語力の研鑽に励みた

* 鹿屋体育大学 大学院体育学研究科 修士課程2年

いと考えている。



発表の合間の議論の様子

終わりに

今回、初めて国際学会に参加し、多くのことを学び、今後の研究活動に有益な経験をすることが出来た。次回、国際学会に参加する際は、より自身の研究内容を知ってもらうために、今回より長い時間を有するセッションに参加したい。

最後に、本学会への参加・発表を行うにあたりご理解を頂いた皆様に、感謝の意を表します。